

難聴の子どもは、聴力と読話力（話し手の口元、表情を見て言葉を読み取る力）を合わせて話を聞き取っています。しかし、常に100%聞こえ、理解できる訳ではなく、授業に参加するには、周囲の適切なサポートが欠かせません。

これは、指導に当たっての基本的な配慮事項です。是非チェックしてみましょう。

学年（ ） 名前（ ） Aできている Bあと少し C要改善

	基本的な配慮事項	チェック
1	【補聴援助システム等の使用】 マイクを口元から15cmくらいのところに付け、スイッチを入れている。 （補聴器や人工内耳は、2m離れると、話者の声が聞こえにくくなる）	
2	【授業者の話し方】 窓側に立たないで話している。 正面から、表情や口元が見えるようにして話している。 （歩きながら話したり逆光だったりすると、表情、口、唇、舌などがよく見えず読話しにくい）	
3	適切な声量ではっきり、ゆっくり（文節で区切るなど）話している。 （「お・は・よ・う」と区切ったり、早口で話したりすると分かりにくい）	
4	「分かりましたか」ではなく、「何が分かったか」を確認しながら話している。 （「分かりましたか」では、本当に分かったか、何が分かったかが確かめられない）	
5	語彙拡充に努め、実態に応じて色々な表現の仕方をしている。 例）思う、考える、思考する、熟考する、練る、導き出す 等々 （言葉での表現が豊かになるとともに、心も育つ）	
6	子どもの発言を受け止めつつ、正しい表現の仕方を示し、文末まで言い切るよう求めたりしている。 （正しい構文で文末まで話すことは、文法の理解や定着にも結びつく）	
7	【視覚的な情報の提示】 キーワードや主発問、指示、子どもの発言などを、板書したり文字カードで示したりしている。 （曖昧さがなくなり、自信を持って学習活動に取り組める）	
8	読み始め、歌い始めは、教科書のページ等を開いて指差している。 （曖昧さがなくなり、自信を持って学習活動に取り組める）	
9	写真や図、イラスト等の教材を工夫している。 （理解の助けになり、イメージを広げることができる）	
10	【担任間及びコーディネーター、保護者との連携】 情報保障の仕方やタイミングを、難聴児や授業者と確認している。 交流学級や通常学級での学習内容の理解度を確かめ、おさえている。 難聴児に困り感がないか、日々、本人や担任と短時間でも話し合っている。 学校での様子や予・復習してほしいこと等を、保護者に伝えている。	

年 月 日

チェックした人（ ）